

教育研究所だより

令和7年度(2025年度)

5月号(通算258号)

輝動

(きどう：子どもが輝き、躍動するまち)

近江八幡市教育研究所

TEL 0748-36-5574

FAX 32-3352

メール

044800@city.omihachiman.lg.jp



小学校1年生の私から今の私へ

近江八幡市教育研究所 所長 楠本 茂樹

みなさん、こんにちは。近江八幡市教育研究所長の楠本茂樹です。5月も中旬を過ぎ、若葉がより深い青葉になる季節になりました。新入学・新入園所の子どもたちの学校園所での生活もそろそろ軌道に乗り始めたのではないのでしょうか。

新入学といえば、我が家には私が小学校1年生の時に書いた『みたことちょう』という日記があります。ひらがなを勉強し、やっと書けるようになった5月中旬からの一年間に宿題で書いたものを、担任の先生が製本してくれたものです。もはや家宝のようになっており、ときどき引っ張り出してきては家族で読んで笑っています。いくつか紹介しますので読んでみてください。(原文のままですので誤字等をご容赦ください)

「きょうわ おとうとがじてんしゃをかいました。なんで はじめわへたですが よくれんしゅうをしたらもっとじょうずになります。それがちがうとおもいました。」

「ともだちが いぬをくれました。いぬとあそびました。いぬとにんげんとどこがちがうかとおもった。いぬはしっぽがありますが にんげんはしっぽがありません。」

「かおをあらっていたら みずのなかにてをいれてみたら てのいろがちがうんでした。」

改めて読んでみると、気になる点がいくつかありました。書いてある内容から、読み手としては「練習したら上手になりますよ。」「人間には尻尾がないのですよ。」とついつい言いたくなるのですが、担任の先生はそうではなく、いつも◎をつけてくれているのです。先生からのコメントも「みつけたこと じぶんでかんがえたことなど くわしくかくこと」とあるだけなのです。また、『みたことちょう(見たこと帳)』なのは分かりますが、そんなにあるのかとってしまうほど、毎日が発見や気づきの連続であること、「なぜ？」や「なに？」にあふれていること、次第に自分の意見や考えを付け加えるようになっていくこと、そして毎日書き続けているということに驚かされます。

先に紹介した「はじめは下手ですが…」のくだりは、後にも2、3回出てくるのですが、その時には、「それはちがう」とは思わず、上手になると書いています。おそらく、自分の体験から考え方を考えたのだと思われます。また、書くことが見つからない日は、家から見える工場の煙突について書いていくことが多いのですが、煙突の数(数は変わらないのですが)やライトの色を日によって変えて書くというせこさ?いや臨機応変さまでもが見られるようになるのです。

60歳になった私が今読んでも心が動かされるのはなぜなのでしょう?それは、『みたことちょう』が、子どもの「遊び」「発見」「気づき」「問い」「試行錯誤」「夢中」「探究」などの体験から育まれる「感性」が持つ計り知れない力や可能性、そして「感性」が生み出す「ワクワク感」を50数年の時をこえて私に伝えてくれるからではないのでしょうか。

事業のご案内

近江八幡市教育研究所のキャラクター
 “つなっきー”です。みなさんご存知でしょうか？
 つなっきーを見れば教育研究所と思ってもらえれば嬉しいですよ。よろしくお願いします。



1. 指定研修

※各種研修の内容は変更になることがあります。

研修・講座名	期 日	内 容 等
初任者研修	① 6月 5日(木)	AM 「教育長講話」 「マナー講座」 PM 「普通救命講習」
	② 7月 1日(火)	AM 「学校事務と給与制度等」 PM 「沖島の歴史と文化について」
	③ 10月30日(木)	AM 「研究授業・授業研究会」 PM 「八幡堀周辺フィールドワーク」
	④ 2月 5日(木)	AM 「読書指導」「学校給食について」 PM 「市内の施設見学」「1年間の総括」
本市勤務 2年次研修	① 11月 中旬	本市の人権教育重点取組研修会(オンデマンド)
	② 12月24日(水)	教育研究発表大会
中堅教諭等 資質向上研修	10月23日(木)	AM 生徒指導・教育相談に関して中堅としての在り方 PM 探究的な視点での授業実践の交流

2. 夏季研修・講座

夏季研修におきましては、詳細が決まり次第、お知らせします。皆さんの日々の業務に少しでも役に立つもの、授業実践力の向上につながるものを検討し、準備を進めて参ります。夏休みの貴重なお時間ですが、興味のあるものにてできる限りご参加いただきたいです。よろしくお願いいたします。

3. 教育研究奨励事業

本市の教育実践活動の充実等を図るため、研究活動を奨励します。積極的にご応募ください。

4. 近江八幡市教育研究発表大会

令和7年(2025年)12月24日(水)午後 安土文芸セミナリヨ

教育研究奨励事業の表彰、今日的な教育的課題に関する研修や本研究所の研究報告を行います。

夏季研修同様、冬休みの貴重なお時間ですが、目の前の子どもたちの成長につながる学びの時間としてぜひ積極的にご参加ください。

5. 研究資料の収集・整備・提供・調査研究

市内外の教育研究資料の収集と情報の提供、教育研究所だより『輝動』を発行します。

6. 教育関係担当者会

不登校等支援ネットワーク会議(全体会・代表者会・校区会)

昨年度より「不登校対策支援チーム」から「不登校等支援ネットワーク」へと名称を変更しました。「つなげる」を合言葉に、教師が子どもの変調を見取る力を高めるための研修や具体的な支援策を生み出すケース会議、小中・外部機関との連携を行います。

☆生きる力から『生き抜く力』の育成を目指した教育を調査研究していきます☆

今年度から近江八幡市教育研究所では、子どもたちに生きる力から『生き抜く力』を育む教育が市内各学校園所で実践できるよう、新たなプロジェクトに取り組んでいきます。ここでは、①なぜ『生き抜く力』なのか、②『生き抜く力』をどうとらえているか、について簡単にお伝えします。

①社会の在り方が劇的に変わる Society5.0 時代、VUCA と呼ばれる先行き不透明な予測困難な時代の中で、本市においても余裕をもって冷静に対応し、予測できない未来に向けて、自らが社会を創造するために、生涯を通じて主体的に学び続ける人材の育成を目指す必要があると考えます。そのためには、非常時においても夢や希望を捨てずに、自ら課題を発見し、あらゆる手段を講じて解決していく『生き抜く力』を育成することが求められると考えています。

②本研究においては、生きる力とは、平常時において発揮する知徳体のバランスの取れた能力、あらゆることに興味・関心を示して、夢や希望を抱いて前向きに成長しようとする力ととらえます。それに対して『生き抜く力』とは、折れない心や柔軟性、発想力といった困難な状況を生き抜いていくために必要な能力、非常時においても夢や希望を捨てずに、自ら課題を発見し、あらゆる手段を講じて解決していく力と考えます。学習の過程の中で一言で表すならば、生きる力は与えられた課題において、様々な手段を用いて解決していく能力であり、『生き抜く力』は課題そのものを自ら発見し、解決に向けて夢中になって探究していく能力と考えます。

今年度は研究校として八幡小・八幡中に協力いただき課題発見から課題解決までの過程を重視した探究学習を、また研究協力6校園の協力教員とともに、子どもが学びに夢中となる学び方の研究を行う予定です。

令和7年度（2025年度） 教育相談関係一覧表

事業名	教育相談室1	教育相談室2	教育支援ルーム「にこまるルーム」
場 所	マナビイ2階	マナビイ2階	マナビイ2階
連絡先	37-8877	37-1205	37-1205
開 室	月～木曜日 9:00～16:30 金曜日 10:00～17:30	月曜日 9:00～16:30 金曜日 9:00～12:00	月～金曜日 9:00～15:30
対象者	市内在住の幼児・小学生・中学生およびその保護者	市内在住の幼児・小学生・中学生およびその保護者、教職員	市内に在住する不登校の小学生や中学生
内 容	不登校や問題行動などで悩んでいる市内在住の幼児・小・中学生およびその保護者を対象とした電話相談・面接相談	不登校やいじめ、集団不適應等の問題行動に対するカウンセリングやプレイセラピー等の心理療法や心理検査	不登校児童・生徒の教育相談および社会復帰するためのきっかけづくりや社会的自立を目指した支援

事業名	訪問教育相談
場 所	市立の小・中学校
連絡先	在籍の小・中学校
対 象	各校在籍の児童・生徒およびその保護者
内 容	各学校にて、不登校およびその傾向にある児童・生徒・保護者への教育相談

事業名	訪問型教育支援「にこまる訪問」
場 所	児童生徒の自宅や公共施設
連絡先	37-1205
対 象	市内に在住する不登校の小学生・中学生
内 容	家庭や公共施設などで、一人一人に応じた学習・生活・人間関係改善等、社会的自立を目指した支援

医師・保健師とも連携をしています。

